

●発行日 平成30年8月25日
 ●発行所 江ヶ崎地区社会福祉協議会
 ●発行者 黒川 修三
 ●045-583-5225
 ●〒230-0002
 ●横浜市鶴見区江ヶ崎町21-4



結びしんぶん



★新鶴見小学校★

安全確保のためお願い

学校長 濱田哲也

今年で24年目を迎える新鶴見小学校は、地域の皆様にも気軽に学校に足を運んで頂けるように、とても開放的なデザインになっています。日常の学校教育活動の他にも、コミュニティハウスの講座や学校開放、キッズクラブ、文化祭や地域防災の拠点として「地域とともにある学校」として皆様に親しまれていると感じております。一方、石川県の小学校で拳銃を所持した不審者が侵入した発砲事件が発生しました。学校長としては児童の安全はもとより、本校をご利用いただくすべての皆様の安全を考えて次のように対応をさせていただきます。まずは正門の脇から自由に入ることが出来ないように生垣で校内を閉じます。(8月中) また今後正門に電気錠を設置して、校内に入る際にはそれを押していただく形にさせていただきたいと思っております。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、安全確保のため、何卒ご理解の程よろしくお願い致します。

★新鶴見ホーム★

運動のすすめ!!

残暑とは名ばかりでとても暑い日が続いております。こんな日差しの中ではあんまり運動したくない…というのが本音ですね(笑)

近年、子供の体力低下が話題となっているようです。例えば立ち幅跳びの9歳男子の平均は、1985年に158.8cmでしたが、12.3cmも低下しています。これは85年の女子の結果とほぼ同じです。他の項目でも体力・運動機能の低下が認められます。原因としては、公共交通機関の発達による歩く時間の減少、外で遊ぶ習慣やスポーツ活動時間の減少等が考えられます。

発育期の子どもたちにとって、外遊びは心身の健全な発育が促されるとされ、とても重要です。特に9~11歳は「ゴールデンエイジ」と言われ、運動神経が良くなるための大切な時期です。この時期を逃さず、いろいろ皆様に運動の経験をさせてあげたいものです。

事務長 小山 健介

横浜に来て初めてお世話になった町「江ヶ崎町」に帰ってきました
 — 地域での暮らしを支えるために —



社会福祉法人 白根学園

希望・工房金魚・ホーム希望
施設長 川北 敏晴

もう暦の上では立秋の季節ですがまだまだ残暑が厳しそうです。皆様如何お過ごしでしょうか。

平成20年5月に“希望”は開設されましたが、私は同年3月から“希望”の中に住み込み働かせて頂いておりました。北海道の苫小牧市からこの横浜にきた単身赴任の私を温かく迎えてくれたのが江ヶ崎町の皆様でした(この地域の水が合ったのか3年間で10kgほど体重が増加しました…)。3年間“希望”で勤務した後、旭区で勤務し今年4月に“希望”への異動が発令され帰ってくることになりました。また、皆様にお世話になることになりましたので、宜しくお願いします。

皆さんもご存知の“津久井やまゆり園”の殺傷事件から2年が経過しました。障害のある方たちの生命と、人としての尊厳をも否定したこの事件は、私たちに福祉施設の職員として、社会人として、人として色々なことを考えさせられるものでした。当時、私は施設の会報にこんな記事を載せてもらいました。英語のことわざの“Out of sight, out of mind.”という言葉です。日本語では、「去る人日々に疎(うと)し。」、意味としては「目の前から居なくなると、だんだん疎遠になるものだ。」という記事です。今も強く思うのは、何か得体の知れないものから隠れる為に“希望”が塙を作り、施設内だけで活動するようなことになれば、何をしている所か?どんな人が住んでいるのか?が分からなくなり、そのうちに忘れ去られてしまいます。「ここには私たちが住んでいて、この地域の中で生活しています。」と皆さんに見てもらうことで地域とのふれあいが生まれるのだと思っています。

“希望”が開設されてから11年目を迎えました。この間、地域に“工房金魚”・“ホーム希望(コピーヌ・コパン、アミーゴ・アミーガ、パセリ)”が地域の皆様のご理解の下で展開していくことができました。地域行事への積極的な参加はもちろん、地域の皆様に気軽に来て頂けるような、障害のある方たちが笑顔で利用できる施設をこれからも目指していきますので、皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。



★新鶴見小 コミュニティハウス★

江ヶ崎八幡祭礼子どもみこしの元気な声が通り過ぎると立秋、いつもの年よりも「暑いですね」の声が多かった猛暑も、このお便りが届くころには収まってきていることでしょうか。コミュニティハウスは鉄筋コンクリート製の小学校の中に組み込まれていて、エントランス前のピロティがとても広く充実していますので太陽光や風雨の影響を直接受けず、エアコンが快適に効く恵まれた環境です。公共施設は皆様のご要望をできるだけ取り入れて運営するのが大切な役割のひとつ。本を読むにも、習いごとをするにも、サークルに参加するにも、活発に利用していただけてこそ!です。暑い夏は程よく冷やし、寒い冬はほっこりと温めて皆様のご来館をお待ちしています。ぜひ一度遊びにいらしてください。

新鶴見小学校コミュニティハウス館長 伊藤崇子

★新鶴見公園★

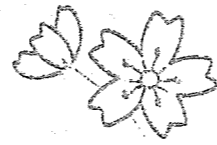
皆さん、如何お過ごしですか。8月7日は立秋。猛暑、炎暑、激暑、酷暑、厳暑、そして「災害レベルの暑い夏」とまでいわれた今年の夏も、ほんの少しですが、秋風が感じられるようになりました。

さて、公園の清掃・除草・花壇の保全などの愛護会の活動について、再度、紹介させていただきます。只今のメンバーは男10名、女6名で、月2回(第2・第4日曜日/AM7:30~約2時間)公園の草刈り・清掃を行い、安全・清潔・みんなが楽しく過ごせる公園を目指して頑張っています。一緒にお手伝いいただける方を、いつでも募集しています。高齢な方の健康づくりにも最適です。無理をしないが長続きの秘訣とか。

どうぞお気軽にご相談ください。

新鶴見公園愛護会 菊池 武徳

みなさま、こんにちは
鶴見区社協の 高井桃子 です



江ヶ崎地区にお住まいの皆さま、はじめまして。
横浜市鶴見区社会福祉協議会の高井桃子と申します。
今年度より江ヶ崎地区の地区担当となりました。
『江ヶ崎のことをもっと知りたい!』ということで、
先日、「ふれあい食事会」に参加しました。豪華なお
食事をいただき、地区担当としてのご挨拶も
また、準備にも少し参加しました。ボランティア
(いちりんの会)の皆さんが味付けや盛り付け方など
細やかなところまで気を配られていることと、ご参加
された方がおいしそうに召し上がっている姿がとても
印象的でした。江ヶ崎のなかで顔見知りが増える機会
でもあると思います。参加の輪が広がることを期待し
ております。



6月27日 ふれあい食事会

地区担当となりまだ日が浅いですが、江ヶ崎を支えて
いる皆さまのお力に少しでもなれたらと思います。何かお困りごとがございましたらお気軽にご相談くださ
い。どうぞよろしくお願いいたします。

ことし(平成30年)の「長寿を祝うつどい」は、
10月21日(日)正午より 新鶴見小学校体育館で ひらかれます

5月11日 江ヶ崎地区社協・定時総会がひらかれ、H29/30年度の決算と予算、事業報告と計画の
審議結果は、「結いしんぶん/回覧版107号」にて、ご報告いたしました。
下記に、「H29年度 収支決算書」を掲載いたしますので、ご覧ください。

H29年度 江ヶ崎地区社協 収支決算書

収		科目	決算額	支		科目	決算額
入		横浜市社協補助金	50,000	出		事業費	947,814
		鶴見区社協補助金	291,200			調査・広報・研修費	60,147
		町内会からの補助金	200,000			事務費	7,683
		その他の補助金・助成金	0			会議費	3,690
		江ヶ崎社協独自会費	0			渉外費	10,000
		鶴見区社協還元金(賛助会費)	339,000			備品費	0
		収益金	55,000			助成金	5,000
		寄付金	55,000			会費	29,108
		預金利子	1			行事保険	20,650
		雑収入	0			雑費	0
		負担金収入	177,700			予備費	0
		その他	0			次年度繰越金	390,865
		前年度繰越金	307,056				
	合計額	1,474,957		合計額	1,474,957		

〈地域包括支援センターより〉

～笑いは人の薬～

“笑い”は心と体の健康のために役立つ

みなさん、最近声を出して笑う機会がどのくらいあるでしょうか？人によっては一日中ほとんど
笑わず過ごすこともあるのではないのでしょうか？そこで、今回は“笑い”がもたらす健康効果を
ご紹介したいと思います！

“笑いがもたらす健康効果”



- 1. 免疫力がアップする**
『ナチュラルキラー細胞(がん細胞や侵入してくるウイルスを退治する)』が
活性化し、がんや感染症にかかりにくくなると言われています。
- 2. 頭がさえる**
笑うことで、記憶を司る『海馬』の容量が増えると言われています。また、脳の血液量
もアップして血液の流れがよくなるため、脳の働きがよくなります(脳卒中予防にもなる)。
ちなみに、ほとんど笑わない人の認知機能は2倍以上低下することが分かっています。
- 3. 酸素をたくさん取り込める**
腹式呼吸になるため、大量の酸素を体内に取り込めます。笑った時の酸素摂取量は、
1回の深呼吸の約2倍、通常の呼吸の約3~4倍になるそうです。また、大きく笑うと横膈
膜が刺激され血流も促進されます。
- 4. 幸福感・やる気とプラス思考にしてくれる**
幸福ホルモン『エンドルフィン(モルヒネの数倍の鎮静作用もある)』と、やる気やプラス
思考ホルモン『ドーパミン(ストレスホルモンの分泌を抑える働きもある)』が分泌されます。
- 5. ストレスを少なくする**
心のリラックスに欠かせない、癒しのホルモン『セロトニン』が分泌されます。
- 6. 糖尿病・心臓病を予防する**
食後の血糖値の上昇を抑え、心拍数や血圧の上昇も抑えることが分かっています。
- 7. 便秘が解消されやすい**
血液量が増加し胃腸を活性化させ、便秘も解消されやすくなります。
- 8. 美容効果**
毎日笑っていればお腹の筋肉を引き締め、顔のしわやたるみの予防にもつながります。

以上のように“笑い”がもたらす健康効果はさまざまありま
す。とはいえ、笑えと言われても簡単には笑えないもので
す…しかし“笑い”は作り笑いでも効果があると言
われています。いつまでも自宅で暮らし続けるために、まずは
作り笑いからでも“笑い”を生活に取り入れてみませんか？



「町のはらっぱ」から

「新鶴見公園」へ

鶴志田 正晴

新鶴見公園が、横浜市の「近隣公園」として、新鶴見操車場の跡地にオープンしたのは平成14年12月でした。それから15余年、愛護会をはじめ、多くのみなさんの清掃や除草などのご努力で「清潔で快適、かつ安全な公園」が維持されています。操車場跡地の再開発に深く関わらせて頂いた一人として、大変うれしいことです。

さて、この公園予定地は、かつて江ヶ崎町の一部でした。

大正末期から昭和4年の鉄道省による新鶴見操車場の建設に伴い、八幡神社をはじめ、10数軒の農家が、2年がかりで町内の現在地に集団移住しました。ですから、この地は私たちの世代にとって、特別の感慨を感じる土地なのです。ところで、操車場の規模ですが、御幸跨線橋から横須賀線沿いに新川崎駅を経て、鶴見区元宮の国道1号陸橋付近までで、江ヶ崎跨線橋が市境になります。

昭和59年(1984)半世紀に渡り、貨物輸送の大動脈であった操車場は、時代とともに鉄道中心から物流事情の変化によりトラック輸送に切り替わり、操車場貨物区の機能は廃止となりました。

新鶴見操車場機能停止で 夜間は真っ暗闇に

機能停止と同時に、操車場構内とその周辺の照明がすべて消灯されてしまい、夜間は真っ暗闇となりました。大慌てで、あちこち飛び回り対応に苦慮したことを思い出します。町内会は、道路灯を早急に設置してほしいとの要望書を提出、道路局より地元・東京電力への協力要請があって、一ヶ月後には道路灯が設置されました。

住民の要望など、一見難問と思われる問題も、行政や、多くの人の知恵を借りることで、解決策が見いだせるものだと感じました。

その後、江ヶ崎町内会長名で、横浜市長あてに、操車場跡地はまず横浜市において購入し、学校や公園などひろく地域住民が使用・協力できる公共の施設をつくってほしいとの要望書を提出しました。

跡地は長らく更地となっていました。平成4(1992)江ヶ崎方面学校の新設開校準備委員会が発足、平成7年(1997)新鶴見小学校が開校しました。

江ヶ崎町 町のはらっぱ

平成5年(1993)新鶴見小に隣接する操車場跡地を市民利用施設用地として購入するとの通知がありました。

そこで、使用目的の決まっていない市民使用用地を使用計画が、決まるまでの間「町のはらっぱ」として、暫定的に地域で活用できるよう、鶴見区長に要望し、平成7年使用許可がおりました。

運営・管理・整備のすべてが、地域の軟式野球チームや地元住民の手に委ねられ、子どもたちは、虫取りや野球に興じるはらっぱでした。

この「はらっぱ」は平成7年3月より、平成12年9月までの5年6ヶ月の間、有効に使用いたしました。

新鶴見小児童も「公園づくり」に参加

1999年(平成11)市公園課より 待望久しい公園の整備が確定したと通知があり、仮称は「新鶴見公園」でした。

中央に「多目的広場ゾーン」新鶴見小寄りに「遊び場ゾーン」新鶴見ホーム寄りに「休憩・散策ゾーン」という整備方針のもと、数回の地元説明会を開かれました。

「遊び場ゾーン」は、隣接する新鶴見小で、3年生が「公園づくり」を総合学習の教材として取り上げる画期的な試みが始まりました。

「こんな遊具が欲しい」「生き物が集まる池が欲しい」といった自分たちの夢を『全校公園アンケート』で集約、その結果をもとに市職員との意見交換をおこない、実現していきました。

町内全世帯に「公園アンケート」

一方、町内会と運営委員会は、新鶴見公園が「清潔で、気持ちよく、安心な公園とするためにはどうしたらよいか」との「開園アンケート」を実施。当時の町内会員世帯の約7割にあたる460の回答がありました。

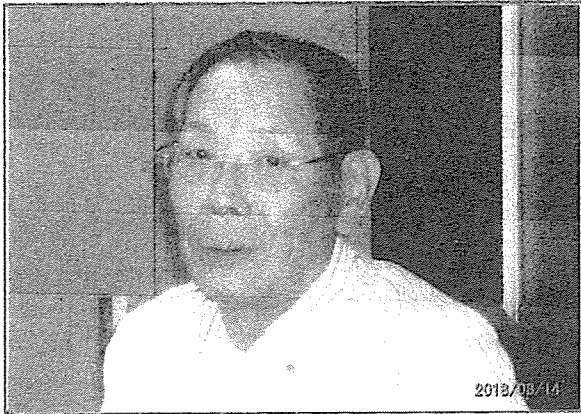
最も関心の高かった「犬などのペット」については、アンケートの結果をふまえ、行政との話し合いを重ねて、当時としては思い切ったわが町「公園のルール」をつくって、開園式を迎えました。

「犬・猫などのペットの連れ込みはできません」

「近隣の人の迷惑にならないよう、午後10時から明け方までの出入りはできません」

江ヶ崎の人

きくち たけのり
菊池 武徳 さん



プロフィール

生まれ：昭和19年(1944)2月17日 満74歳 申(さる)年
横浜市鶴見区市場上町

7人兄弟(1男6女)の6番目

趣味：旅行 スポーツは中学時代のバトミントンぐらい

嗜好：(食べ物)好き嫌いはない。お袋の手料理は最高にうまかった。「食わず嫌い」の面もある。

(酒)日本酒→ビール→ウイスキー→ブランデー→焼酎と飲みまくった。

いまは1年以上、口にしていない。

(煙草)こちらは やめられない。いまでも1日20本。「不健康な高額納税者」です。

—「男の子がうまれたぞ！」

太平洋戦争が終わる前年の2月、京急鶴見市場近くで誕生。生家は普通のサラリーマン家庭でした。

上の5人がみな女の子でしたから、待望の跡取り息子の誕生でした。明治生まれの親父は、「男の子がうまれたぞ！」と狂喜乱舞したらしい。

ですから、大事に大事に育てられたのはホントです。また、少し我儘に育ったとの指摘もホントです。

戦後の食糧難で大変な時代でしたが、わが家の食

卓は、大変恵まれていたように思います。料理が上手いお袋のやりくりと親父の実家茨城からの食糧支援が続いたことがありがたかったです。

—市場小・中 ソフトボールのこと

こどものころから運動(スポーツ)は苦手。「大事な一人息子」ですから、親父の「余計なことをしなくていい」との言葉に素直に従っていました。

市場小5・6年生の頃算数の暗算とか計算とかやると、いつも2番でした。一人だけ勝てないヤツがいる。そこでもう一頑張りする気力がないのが、だめなんですね。

市場中では、英語→これが苦手だね。これももう少ししゃっときゃよかったといまでも思う。

若い頃の勉強には、「これでいい」ということがないことを、大人になってよく分かりました。

—ソフトボールが嫌いになったわけ

新入社員の頃、人数合わせ要員を承知で、ソフトボール部に入部。試合で急に捕手をやれと云われた。「投手のボールは打者が必ず打返すから、お前は座っているだけでいい」との指示。ところが、見逃したり空振りする意地の悪い奴(?)がいて、キレイな顔面に剛球を喰らってしまった。敵の大笑いはイイとしても、味方まで笑いやがって、絶対許せない!と今になっても笑いながら怒っています。

—昭和35年 江ヶ崎(さつき地区)へ

昭和35年、中学を終えた年に江ヶ崎・さつき地区に越してきました。親父やお袋は、すぐに江寿会(当時は江ヶ崎老人クラブ)や神社の世話人に声を掛けてもらえて、大変喜んでいました。息子としても感謝しています。

昭和38年、高校を終えて日本電気に就職。入社時は三田事業所、昭和50年に玉川事業所に移り、ここで38年間を過ごし、定年の2年前に希望退職しました。

職種としては一貫して受注生産型の製造生産管理で現場ではない。現場での作業がスムーズに進むように準備を整える役割を果しました。

—平成3年から、青少年指導員に

私が町内会に関わりを持つようになったのは、平成2年からです。当時は、いわゆる勤め人が地域社会に関わるなんてとても考えられないことでした。

両親と違い、その当時私にとつての江ヶ崎は朝早くでて、深夜に戻る、たまに帰らぬ日もあり、「寝に帰るだけの町」でした。「菊池宅には息子さんはいない」との定説(?)が30年続いていたのです。

45歳を過ぎたころ、ひょんなことから町内会の行事に関わることになった。それは、もちつき大会の「手かえし」役でした。

平成3年、青少年指導員となりました。青指は地域ぐるみの青少年の健全育成を図るため、町内会等の推薦に基づいて、横浜市長より委嘱されます。

任期2年を6期12年務めました。オープンして間のない東京デズニールランドを引率したのが一番の思い出です。価格の安い「夜の部」に大事な子どもさんをお連れするというので、それなりの苦労がありました。

ほぼ同時期に始めた鶴見区子ども育成会は現在も続けています。この夏も、事業部長として区内の児童37名を引率して、2泊3日のキャンプを横浜市少年自然の家赤城林間学園で終えたところです。

青指を卒業したのち、鶴見警察署少年補導員の委嘱を受け70歳の定年までの11年間勤めました。

町内会では、平成11年から16年まで3期6年副会長でした。

町内では、「江寿会」と新鶴見公園の公園愛護会会長を務めています。江寿会の4代目会長は、私の父道之助で、江ヶ崎老人クラブから江寿会と名称変更したと聞いています。私は7代目となります。

インタビューを終えて

「シャイな性格とちょっと悪ぶるところとが同居しているが、ホントは信用が置ける人です。

副会長として私を支えてくれた頃は、お願いした仕事は責任もって進めてくれました」と鴨志田正晴元町内会長は話されています。